

# 児童・生徒が主体的に学ぼうとする学習指導の研究

十島村立中之島小・中学校

## 1 研究のねらい

本校は小学校8名、中学校8名という極小規模の小・中併設校である。そのため、複式形態や1人学級での授業が多い。また、本村の生徒は、高校進学を機に親許を離れる「15の島立ち」が待ち受けているという実態もある。

そこで、自ら課題を見つけ、課題の解決に粘り強く取り組み、主体的に学べる児童・生徒の育成が必要だと考え研究・実践を行ってきた。

## 2 研究の概要

本研究は、今年度で3年目となる。理論研修では、主体的な学びについて全職員で理解を図り、児童・生徒の実態調査アンケートをもとに指導法改善に努めている。また、改善策に関しては主に国語、算数・数学の授業で実証を行い、授業研究で共通実践事項について協議を行って作成したり具体的な新たな改善策の共通理解を図ったりして、以降の授業から迅速に実践できるようにしている。

## 3 研究の内容

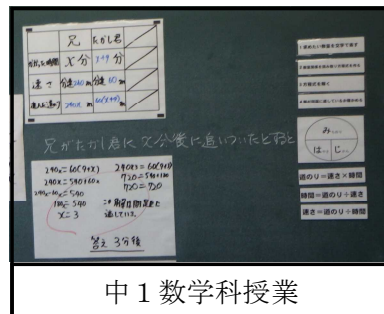
- (1) 発達段階に応じた学習指導を通じた教科の見方・考え方に関する研究
- (2) 学習の基礎・基本の定着を図るための研究
- (3) 学習の見通しや振り返りを充実させるための研究

## 4 研究の実際

### (1) 発達段階に応じた学習指導を通じた教科の見方・考え方に関する研究

学習指導要領をもとに国語科、算数・数学科における見方・考え方について職員一人一人の解釈を元に、本校での捉え方について共通理解を図った。

特に、算数・数学科においては「図・グラフ・表などの資料を数学的用語を用いて説明すること」と解釈した。さらに児童・生徒が学習用語を使わずに説明したり記述したりする実態があったことから、算数・数学科の教科書に記載されている学習用語のキーワードカードの作成を全学年で行った。活用方法は、①学習の見通しをもたせる、②説明の補助、③自力でのまとめなど多様な方法での活用が図られた。また、授業者が迅速にキーワードを記入できるように白紙のカードも作成し、加えて他教科でも活用することも実践した。



### (2) 学習の基礎・基本の定着を図るための研究


本校では、毎週火曜日と水曜日の朝の活動を学力向上のためのチャレンジタイムとして設定している。これまでは、それぞれの学級の実態に応じた活動をしていた。今年度は、より児童・生

徒の学習課題の解決を図るようになるために、NRT検査の結果を基にした個別に補充学習ができるアシストシートを解かせる活動を共通して行った。また、小学校高学年、中学校においては教育事務所から送られる「今週の1問」を解かせ、解説する時間として活用することも行った。

### (3) 学習の見通しや振り返りを充実させるための研究

本校は、複式形態や児童1人での授業を実施しているため、児童に学習の見通しをもたせるとともに、自主的に学びを進めようとする態度を身に付けさせなければならない。そこで、1単位時間の学習の進め方をマニュアル化して作成し、児童に手持ち資料として配付した。各担任や教科に合わせて、柔軟な運用をしている。

また、学習の振り返りをすることは、学習したことを次の学習や生活に生かそうとする連続性を児童・生徒に意識させることができるものと捉えている。そこで、本校の教育活動と関連させ「御岳だ(大事なこと)・い(今までと比べて)・こ(これから生かしたいこと)」という3観点での振り返り活動を1単位時間や単元の終末に設定し、記述や発表をさせた。

<p>中之島小・中学校のべんきょうのしかた</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 もんだいをよむ。 いままでどのくらいか ていやくをよむ。 <small>いままでどのくらいか ていやくをよむ。</small> <small>いままでどのくらいか ていやくをよむ。</small></li> <li>2 めめてを立てる。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>3 べんきょうのほうほうをかんがえる。 いままでどのくらいか ていやくをよむ。 <small>いままでどのくらいか ていやくをよむ。</small></li> <li>4 じぶんでかんがえる。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>5 ともだちにはひょうする。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>6 みんなではなしあう。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>7 べんきょうのまとめをする。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>8 れんしゅうもんだいをする。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>9 「おたけだ・い・こ」でふりかえる。</li> </ol>	<p>中之島小・中学校の学習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題を読んで気付いたことをまとめる。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>2 めめてを立てる。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>3 学習の見通しを立てる。(予想・方法) 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>4 自分の考えをもつ。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>5 友達に発表する。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>6 みんなで話し合う。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>7 学習のまとめをする。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>8 練習問題や確認問題をする。 問題がわかってから めめてを立てる。 <small>問題がわかってから めめてを立てる。</small></li> <li>9 「御岳だ・い・こ」で振り返る。</li> </ol>	<p>「御岳だ・い・こ」でふり返ろう</p>  <p>今日の学習で <b>だ</b> いじなこと</p> <p>いままでとのちが <b>い</b></p> <p>これからやってみ <b>こ</b></p> <p>「御岳だ・い・こ」での振り返り</p>
低学年用	中～高学年、中学生用	

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

- ア キーワードカードの多様な活用によって、児童・生徒が視覚的に学習用語を理解し、記述問題等に生かしている姿が見られるようになった。
- イ 学習の流れを全学年で共通化していることで、児童・生徒が学習の進め方を理解しているので、学年や担任が変わってもスムーズに学習を進められるようになった。
- ウ 振り返りの視点が児童・生徒に定着しており、既習事項とのつながりを意識して学習している様子が見られるようになった。

### (2) 課題

キーワードカードを他教科でも活用を図ることで、更に各教科における見方・考え方が身に付くのではないかと。また、自主的な学びや学習の振り返りの場面において、基礎・基本の定着をどのように見取ればよいかを課題である。

## 6 今後の取組

本研究を通して、児童・生徒の主体的な学び方の基礎や職員の意識の向上を図ることができた。これを土台として、更に「対話的な学び」や「深い学び」に発展・充実させていく指導方法を考えていきたい。